

公立大学法人長野県立大学第 2 期中期計画 主な内容

第 2 期中期目標	第 2 期中期計画	主な項目別評価指標												
<p>教育 (特色ある教育の推進) 海外プログラムや発展的な英語科目の開講等により、学生が在学期間を通して継続的に実践的な英語力を身に付けるとともに、多様な価値観を理解し、グローバル化に対応できる人材へと育つよう努めること。</p>	<p>教育 (特色ある教育の推進) 海外プログラム等により、学生が多様な価値観を理解し、グローバルな視野を持った人材へと育つよう取り組む。</p> <p>英語における「読む・聞く・書く・話す」の 4 技能を身に付けることができるよう、各学部・学科の特性に合わせて独自に構築した 1 年次・2 年次必修の英語科目等による英語集中プログラムを行う。</p> <p>加えて、3 年次・4 年次にも英語履修が継続できる発展的な科目を配置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修先の確保や学生のニーズを踏まえ、毎年度、現地研修を基本とした各学部・学科の専門分野の学修も含む海外プログラムを実施し、対象学生の参加率を 100% とする。 毎年度、学部ごとの学生の TOEIC 成績について、それぞれ下表のとおりとなるように取り組む。 A：2 年次修了時の平均点 B：1 年次入学時点から 2 年次修了時までの平均点の伸び率 C：成績上位 2 割の学生の平均点 <table border="1" data-bbox="1285 726 2074 828"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グローバルマネジメント学部</td> <td>730 点以上</td> <td>40%以上</td> <td>800 点以上</td> </tr> <tr> <td>健康発達学部</td> <td>650 点以上</td> <td>30%以上</td> <td>700 点以上</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 卒業時まで継続して英語力が向上できる英語教育の環境を整備する。 		A	B	C	グローバルマネジメント学部	730 点以上	40%以上	800 点以上	健康発達学部	650 点以上	30%以上	700 点以上
	A	B	C											
グローバルマネジメント学部	730 点以上	40%以上	800 点以上											
健康発達学部	650 点以上	30%以上	700 点以上											
<p>(教育の質の向上等) デジタル化への対応など社会のニーズを的確に捉えつつ、教育活動の状況に合わせて、教育の実施体制の構築に努めること。</p>	<p>(教育の質の向上等) 社会を取り巻く環境やニーズを適切に捉え、時代の変化に対応した教育研究活動のあり方を継続的に検討し、必要に応じて対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度に (2025 年度) に、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルの認定プログラムを設置し、学部の全学生がデジタル時代や社会ニーズに応える教育を行う。 毎年度、教育研究活動や財務等の IR 活動に取り組み、本学の状況を分析し、時代の変化に対応した教育研究活動のあり方を検討する。 												
<p>(学生への支援) 学生が県内企業等を知る機会を確保し、県内企業等への就職促進に取り組むこと。</p>	<p>(学生への支援) 県内企業等を中心にインターンシップ等の受入れ先を開拓し、学生に地域の企業等を知る機会を提供して、県内企業への就職を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度、県内の企業・団体等への就職を促進するためのキャリア・就職支援に関する各種講座やイベントを、20 回以上開催するとともに、他団体が主催するイベント等の情報を学生に提供する。 毎年度、県内を中心に企業・団体の協力を得て本学が主催するキャリア実習を正課内外で実施するとともに、実習先の新規開拓に努め、学生の参加機会の充実を図る。 												

第2期中期目標	第2期中期計画	
		主な項目別評価指標
<p>研究 (特色ある研究の推進) 大学の特性に応じた特色ある研究活動を推進するとともに、国内外の大学、研究機関等と連携を図ること。 あわせて、地域課題の解決に資する研究に取り組むとともに、県の政策形成をはじめ広く活用されるよう研究成果を発信すること。</p>	<p>研究 (特色ある研究の推進) 複雑化・多様化する課題に対応するため、学内での学問領域を越えた研究の促進や他大学等との共同研究に積極的に取り組む。 また、研究成果のグローバルな発信に取り組む。 地域課題の解決に資する実践的な研究を促進するとともに、教職員及び学生の専門性や研究成果を活かし、「知の拠点」としてのシンクタンクの機能を発揮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部・学科等の部局を越えた学内の研究や他大学等との共同研究を促進する。 ・研究成果のグローバルな発信に取り組むための環境を整えるとともに、情報を集約する。 ・県をはじめとした地方自治体や企業等と連携して地域課題を把握し、その解決に貢献する研究を推進する。 ・学長裁量経費を活用して、地域課題の解決に資する研究を奨励・促進する。
<p>地域貢献 (地域連携) 高大連携やリカレント教育等、県民の多様な学習機会に資するよう努めること。</p>	<p>地域貢献 (地域連携) 県・市町村、県内教育機関等との連携により学生の地域での活動を支援するとともに、高大連携の取組を推進する。また、リカレント教育も含む多様な学修の場を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、人材育成をテーマとして、社会人向けや学生も対象に含めた10件以上の公開講座を企画・開催し、参加者満足度を5点満点中、平均4点以上とする。 ・地域との連携・交流のため、毎年度、サービスマーケティングや地域イベントへの参加の機会を設け、学生に参加を促す。 ・高校生が本学の専門教育に触れる機会の提供について、検討・実施する。